



会報 JAMT

JAPANESE ASSOCIATION OF MEDICAL TECHNOLOGISTS

発行所

一般社団法人 日本臨床衛生検査技師会
発行責任者 宮島喜文
編集責任者 中井規隆

〒143-0016 東京都大田区大森北4丁目10番7号
TEL (03) 3768-4722 FAX (03) 3768-6722
ホームページ <http://www.jamt.or.jp>

- P1 認定一般検査技師制度～第9回認定試験開催される～
P2～P4 「地域ニューリーダー育成講習会」報告(1)
P4 平成27年度予算・税制に関する要望提出

認定一般検査技師制度 ～第9回認定試験開催される～

担当理事 中山 茂

試験スケジュール

- 8:50～9:20 (30分) 受付
9:20～9:30 (10分) オリエンテーション
9:30～11:30 (120分) 筆記試験(分野Ⅰ・Ⅱ)
11:30～12:30 (60分) 昼食・休憩
12:30～14:00 (90分) 筆記試験(分野Ⅲ～Ⅷ)
14:00～14:20 (20分) 休憩
14:20～16:00 (100分) 筆記試験(全分野の画像問題)



真剣に試験問題に取り組む受験者の皆さん

10月26日(日)日本青年館中ホールにて認定一般検査技師制度第9回認定試験が行われました。試験当日は好天に恵まれ、日本全国から128名と今までで最も多くの受験者が試験に臨まれました。運営する側として年々増加する受験者の対応も必要と思われました。

受付は8時50分から行う予定でしたが、多くの受験者が時間前に会場に来られたため、早めに受付を開始しました。受付が済むとほとんどの方が本や自分でまとめたであろうノートを一生懸命見入っていて、今回の試験に対する意気込みを感じました。

緊張感の漂う中、9時20分から試験の注意事項等のオリエンテーションを行った後、午前中の2時間の試験がスタートしました。

午前中の試験が終わり、一時間の昼食・休憩がありましたが、多くの方は寸暇を惜しんで勉強をされていました。午後は90分の筆記試験、100分の画像問題と試験が行われ午後4時に合計で5時間10分にもおよぶ全ての試験が無事終了しました。

平成18年度に始まった認定一般検査技師制度ですが、この8年間で413名の認定一般検査技師が誕生し、全国で活躍されています。この認定制度が一般検査に携わる臨床検査技師の知識や技術の向上に寄与し、ひいては検査の標準化の推進の一助になることを期待してやみません。

～お知らせ～

今まで試験会場として使われて来た日本青年館は2020年に行われる東京オリンピックのメイン会場となる新国立競技場の敷地にかかるため取り壊しされ、移転が決まっているとのこと。来年度は10回目の試験になりますが、試験会場も新たな場所で行われることとなります。



「地域ニューリーダー育成講習会」報告(1)

ハードで有意義だった

「地域ニューリーダー育成講習会」

日臨技主催「地域ニューリーダー育成講習会」を10月25日(土)～27日(月)の3日間に渡って開催しました。
「変革する時代に求められる次世代のニューリーダーとは」をテーマに、

- ① チーム医療におけるメディカルスタッフの役割にふさわしいリーダーシップを習得する。
- ② 組織の目標達成に向けた事業展開や中長期計画の考え方を習得する。
- ③ 医療関係者との緊密な連携をするための提案力や説得力を持った臨床検査技師になる。

を研修の獲得目標としました。

組織強化の一環として、日臨技として初の試みでしたが、全国の都道府県技師会から推薦を頂いた43名のニューリーダーの皆さまにご参加いただきました。

初日は宮島会長をはじめとする執行理事が、各担当分野の重点課題と方針について講義を行い、2日目からはリーダーシップに関する解説に始まり、「目標」の作成から「達成」へのシナリオについて作成技法を学んでいただきました。

講習会の終了時間が22時というハードな講習会でしたが、参加者からは技師会活動に対する熱い思いがあふれ、また参加者同士の交流も進み、ご参加いただいた皆様の今後の活躍が期待されるものとなりました。また、日臨技が現在抱えている多くの課題や方針を次世代を担う若い方々と共有できことが日臨技にとっても大きな成果となりました。

今回は多くの企業で採用実績を持つ「Step表」を用いた研修会でした。参加者していただいた皆さまの声や「Step表」を用いた目標達成のシナリオ作成技法につきましてご報告させていただきます。

(執行理事 上原昭浩)

日臨技主催 『地域ニューリーダー育成講習会』の報告

高知大学医学部附属病院 市川 厚

今回の講習会は日本臨床衛生検査技師会（日臨技）が主催する組織活性化及び組織強化事業の一環した育成をめざし、他県との交流強化を目的とした講習会であり、各県からの代表参加者（平均年齢30～50歳の会員）が日臨技の掲げる第4次マスタープランの中から興味のあるテーマ選択および各県で現在抱えている課題を持ち込み、それぞれの解決に向けてのストーリー作成に取り組む事が重要視されていた。

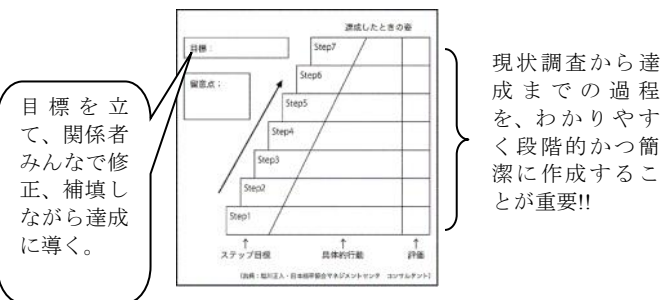
講演内容としては、日臨技がどういった方向性を目指しているのかなどについて、「社会情勢と次世代のリーダーに求めるもの」として宮島会長、「臨床検査技師法と新たな業務拡大について」下田常務理事、「日臨技の組織について」横地専務理事、「日臨技の重点課題と方針について」学術関連では松本副会長、総務関連として上原執行理事より報告および講演をして頂きました。また、「リーダーシップとは」および「STEP表作成」に関して人材開発コンサルタントの塩川正人先生より講演がありました。

本講習会の重要ポイントとなるものは目標書作成と臨床検査技師に関する法改正について、さらに他県との交流が重要視されたものだとして理解しました。それぞれの内容について下記に要約しました。

1.目標書作成について

◎目標に対する解決方法の一つである「STEP表」の使用推進を求められた。

◎STEP表・・・目標に向けて段階的なプロセスが理解しやすく、他のスタッフからの助言や修正を貰うことで、問題点を共有し解決および目標を達成させるツールであり、様々な目標や課題に応用が可能。



(次ページへ続く)

(前ページより続き)

2. 臨床検査技師に関する法改正について

◎平成27年4月から我々臨床検査技師が診療の補助として検体採取を行うことが出来ることになった。しかし、検体採取を行うためには、追加研修の受講が義務化されている。追加研修は、日臨技が生涯教育の一環として各支部に展開する予定であり、受講は会員、非会員を問わず臨床検査技師として検体採取に携わるためには必須であるため、必ず受講して下さいとのこと。対象採取部位としては咽頭、鼻腔、表在、肛門などでスワブでの採取が想定されている。(厚生労働省より定められるライセンス)

◎検体採取ができる業務は、診療診断補助として採血に加え医療においても重要な位置づけとなり業務拡大へと大きく貢献される事が期待される。

◎このような臨床検査技師として働きやすい環境作りは、日臨技が中心となり国へ働きかける啓蒙活動の重要性を地臨技(都道府県各技師会)に知って頂き、これからの職域向上のためにも政治力強化に繋がる会員皆様の技師連盟加入への重要性が報告された。

3. 他県の代表参加技師との交流

◎今後も他県との情報交換が継続できる環境が構築された。



グループワーク等を通じて他の参加者との親交が深まった

最後に、このような貴重な機会を与えて頂きました、日臨技執行理事および関係者の皆様にお礼申し上げます。

初めてお会いする方々との絆を深める

高梁中央病院 福島 明德

今回私は、平成26年10月25日から27日にかけて第1回地域ニューリーダー育成講習会に参加させていただきました。

初日は、日本臨床衛生検査技師会会長宮島先生を始め、講師の先生方より講演を拝聴させていただきました。

近年、医療に展開できる新しい技術を診療報酬で組み立てて、汎用されて開発が少ないものは診療



報酬を下げるといった流れがあります。そういった時代の中で、今後、臨床検査技師は、病棟検査技師、検体採取、検査説明・相談のできる技師等に積極的に取り組み、医師・看護師の代わりに医療を行うことでチーム医療の一員となることが必要となります。患者さんの傍に立って医療行為をすることによって評価が作られ、検査のすべてを担うという形を作り、その権利を主張し義務を果たしていかなければなりません。また、組織のあり方や、重点課題について問題意識を共有していかなければなりません。その為には、常に進化していく情熱と勇気を持ってほしいとの言葉が心

に響きました。

2日目、3日目は、また、業務改善の提案や新人教育、チーム医療への参画等幅広く役立てることができ、さらには日臨技組織の発展においてはマスタープランにステップ表を活用することで、会員に具体的な方向性を共通認識することができると感じました。

今回の研修会は、各都道府県から1名ずつの参加であり、グループワークでは初めてお会いした方々と知識を共有しあい、そしてお互いの絆を深める事の大切さも学ばせていただきました。研修以外の時間も、他県の方々と情報交換や技師会のこと、また社会人として、人としてのあり方など語り合いご教

示いただき、大変有意義な研修会でした。今回の研修で学ばせていただいた事を生かしていけるよう研鑽していきたいと思っております。



10年後の検査技師を想像できるように

島根県立中央病院 公田 幸子

疲れた～。というのは終了後の第一声。でもなぜか“楽しかった！”という思いで満たされていました。夢中で取り組んだからでしょうか。なにより全国から各県代表で参加された皆さんの、技師会を変えたい！活性化したい！という熱い思いに圧倒されました。恥ずかしいことにこれまで日臨技が何をしているのかよく分かっていなかったのですが、今回の参加で技師一人ひとりの活動の場を確保するために重要な役割を負った組織だと知りました。

講義の中で10年後の検査技師はどうなっているか想像するよう言われたとき、頭が真っ白になりました。今の自分のこと、ここ数年の自施設の業務のことしか考えたことがなく、10年も先の技師の役割など意識したことなどありませんでした。20年以上勤めてきた自分でもこんな状態だから、今、臨床検査技師の危機なんだと痛感しました。

危機の一因として、技師はPRが下手だという話もありました。少なくとも本講習会の参加者をみる限り、みなさんとてもおしゃべりが上手なのになぜ…とも思いました。PRの場を作ることができれば、臨床検査技師の存在をうまくアピールできるのではと感じました。

「人が足りないからできない」ではなく、「人を増やしてでも臨床検査技師にやってもらいたい」と思わせるほどの仕事をする姿勢。その姿勢を皆が持つことを目標に、そのために今すべきことは何かを考え、提案することが受講した私の役割だと感じました。

今回参加できたことは臨床検査技師としての自分の姿を見つめなおす良い機会となりました。また、熱意のある全国の技師さんと同じ悩みを共有でき、繋がれたことはとても貴重な財産です。

3年後に再会できることを楽しみに、皆さんに恥じぬよう努力していきたいです。

今回より3回にわたりグループワークの各チームの代表者に『地域ニューリーダー育成講習会』参加しての報告、感想を寄せていただく予定です。次回以降も是非ご覧ください。

◆平成27年度予算・税制に関する要望提出◆

平成26年11月4日に政府与党（自由民主党、公明党）に対して、以下の3点を要望事項として文書で提出いたしました。

なお、文書は日臨技と技師連盟の連名としました。

要望事項

1. 臨床検査データの精度保証及び標準化事業の予算化
2. チーム医療推進・在宅医療充実等のための臨床検査技師の活用
3. 特定検査（輸血・微生物・病理・細胞診・遺伝子）の業務独占化

（編集後記） 全国検査と健康展の中央会場へお手伝いに行かせてもらいました。長崎県臨床検査技師会の皆さまは本当に頑張ってみえました。ところで「がんばる」とは困難にめげないで我慢してやりぬくという意味ですが、実は「我を張る」というのが語源だそうです。自分の考えを何処までも通そうとする。自説を譲らないという意味もあるとか。「あきらめる」はやりかけたことを途中で投げ出す否定的なイメージですが、「明らめる」と書いて物事の道理や真理を明らかにすることだそうです。近頃、段々頑張れなくなっている気がするということは、我を張ることもせず、流されてきているのかなあ。

【中井】